



第18回

全国棚田 千枚田 サミット

子どもたちへ残そう地域の宝

～ 地域が育み続ける棚田の文化と景観 ～

〈開催日〉

平成24年 10月19日(金)～20日(土)

四谷の

千枚田だより



第111号



〈開催地〉熊本県山都町

鞍掛山麓千枚田保存会から高橋孝行、村雲伸一、原田英史、松下 誠、小山舜二の五名が参加。全国の棚田衆と年に一度の顔合わせに心を馳せた。

我が家を朝、五時に出発。十時五十分からの基調講演 講師：熊本大学教授 吉村豊雄氏 演題：「棚田の歴史をさかのぼる」白糸台地の棚田から見えてきたもの」に余裕をもって参加する事ができた。

午後は事例発表「菅棚田及び白糸台地棚田の取組み」事例①「文化的景観保全と地域づくり」②「自主的なむらづくりの実践」③「山里のやすらぎ」の提案と題して地元からの発表があった。分科会は①地域が守る棚田の保全と活用②棚田が育み続ける自然と機能③棚田景観を活かした持続可能な地域づくり④棚田を未来に引き継ぐ主体と方法の四分科会がそれぞれ異なった会場で行われた。我々、保存会全員が第二分科会に参加。内容が「生きもの教室」的に終了した感があり、質疑の折「主題の棚田(サミット)が見え

てこない。棚田が土生くむ生きものと共生した米づくり、生きものの役割、生物多様性」など肝心の棚田と生きものとの結びつきが希薄であると発言してしまった。

交流会は体育館を会場に地元住民や料理組合総出の地産料理や地元芸能が次々と披露。特産の赤牛をたらふく頂きながら心地良い交流会を味わった。



宿泊は国民宿舎で隣室の新生ふるきやらのチーフプロデューサー一ひらつか順子さんと石井里津子

ライターをお呼びして棚田保全・継承、サミットの在り方など、わいわいがやがや話が弾んだ。(ひらつかさんは(舜が平成六年愛知国体会場で棚田写真展を全国発信した際、観覧して頂いた以降、棚田への思いを一つにしたおつきあいである)



翌日、現地見学会は菅棚田、峰棚田、白糸台棚田の三コースで保存会は白糸台棚田を見学した。急峻な谷底を流れる豊富な河川の中、水源に乏しい白糸台地に水を送るために嘉永七年に架けられたアーチ型通潤橋で国の重要文化財を見学した。

平成二十四年度 ふるさと・水と土指導員連絡会議

十一月一日、岡崎市ホテル学校を会場に行われた。

出席者(ふるさと指導員・市町・県担当職員)

・ 千万町茅葺屋敷持参所の会	加藤勝彦	
・ 鳥川ホテル保存会	松田直人	
・ 中馬蕎麦倶楽部	三江弘海	山内良志
・ 稲武地区まちづくり懇談会(桑原棚田班)	松井晃	
・ 鞍掛山麓千枚田保存会	林 義明	原田英史
	小山舜二	
・ 名倉地区営農推進協議会	竹内道王	後藤千里
	原田陽子	
・ 名倉高原生産組合	鈴木秀次	金田 勉
市町職員 岡崎市 2名	新城市 1名	設楽町 1名
東栄町 2名	西三河農林水産事務所建設課 4名	
豊田加茂 2名	新城設楽 3名	県庁農地計画課 3名

この会議はふるさと・水と土ふれあい事業実施地区における中山間地域の活性化を主目的に地域で活動している指導員を対象に毎年持ち回りで開催されている。

事例発表 松田指導員・柴田技師により鳥川地区の取組みが紹介された。概要 平成二十一年に鳥川小

学校が閉校され、その校舎を「ほたる学校」として活用している。鳥川地区の魅力としてゲンジボタル・名水・登山道に加えて、石仏等の歴史的文化を「今ある自然・文化・農地を生かしたまちづくり」を地域のキヤッチフレーズとして取り組んでいる。

事例発表後、名水、石仏、トヨトミ梨(世界で一本しかない)などの現地見学会が行われた。会場に戻った指導員は、各自、地域の掘り起こし(村づくり)の成果、問題点などを提言するなど、有意義な会議であった。

追記 ほたる学校の資料室に「古田家所蔵」と記された書物が多く展示されていた。古田忠久先生は平成十三年から二十一年まで全国ホテル研究会の会長を歴任するなど、ホテルの先生である。生家は我が家からも見える大林集落で通りがかりにはいつも「ほい、ホイ」と声をかけてくれる気さくな先生だ。

叙 勲

中島峰広先生(棚田学会会長・棚田ネットワーク会長)が秋の叙勲において瑞室中綬章を受章されました。中島先生は「四谷の千枚田」を何回

となく訪れ、東京を会場に棚田講座「四谷の千枚田」をタイトルに連続講座を開いて頂くなど、地域の皆さんと身近な間がらです。本当におめでとうございました。

横浜ゴムへ薫出荷

十一月八日、環境に取組む横浜ゴム新城工場に広葉樹の育苗や樹木の敷き藁として活用するため、毎年購入して頂き、出荷した。

同社は東日本大震災の被災地復興支援の一環として海岸線に防潮林の植栽を実施するなど、社会貢献に優れた会社である。



御利益

平成十七年四月、千枚田の四阿に投句箱を設置。俳句や短歌の愛好家が投句されている。以来、その投句箱に千円札二枚、百円二個、十円五個、五円一個 一円三個の計二千二百五十七円が入っていた。これはご利益として保存会の活動に使わせていただきます。

環境整備活動

十一月十八日(日)、連谷お助け隊・保存会は連谷地域振興及び活性化のため「あいち森と緑づくり事業」の助成を受け連合地区の松下・真菰集落を中心に県道沿線の雑木の抜木等の作業を実施する。

餅つき大会のお知らせ

保存会は恒例となった「餅つき大会」を十二月九日(日)、十時から十四時を目安に「ふれあい広場」で行う。当日は、つきたての「すずはら糯」や個体数の削減を視野に捕獲した猪肉を資源の有効活用として「イノシシ汁」にして振る舞う。

行 平成二十四年十一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二